

すずむし

第 110 号

1973年12月

倉敷昆虫同好会

目 次

日 浦 勇	ベニモンカラスシジミをめぐって.....	1
難 波 通 孝	ベニモンカラスシジミ中国地方亜種の新知見.....	9
中 村 具 見	岡山県のゼフィルス分布生態メモ.....	13
難 波 通 孝	ツマグロキチョウ <i>Eurema laeta bethesba</i> JANSON の 生態小観察	17
渡 辺 昭 彦	岡山県未記録の蛾数種.....	18
竹 内 亮	鳥取県東部のヤマキマダラヒカゲについて.....	19
渡 辺 穀	1973年に採集した蝶から.....	20
難 波 通 孝	蝶7種の産卵植物について.....	27
難 波 通 孝	蝶3種の飼育例.....	27

《おとしぶみ》

青 野 雅 樹	ヨツボンチビヒラタカミキリ岡山県内での新分布地.....	16
那 須 敏	ヒトオビチビカミキリの記録.....	16
守 屋 健 次	モリヤママドガ矢掛町の記録.....	18
渡 辺 和 夫	ニッコウナミシャク総社市での記録.....	19
渡 辺 穀	ウスイロコノマチョウを採集.....	21
西 島 真 也	クロコノマチョウを浅口郡金光町で採集.....	21
赤 枝 一 弘	クロコノマチョウの記録2例.....	21
難 波 圭 吾	ヒメシジミの新産地.....	21
藤 原 敏 栄	クロツバメシジミの新産地.....	21
三 宅 誠 治	ホシチャバネセセリの新産地.....	22
難 波 通 孝	ホシチャバネセセリ2化について.....	22
難 波 圭 吾	カラシシジミを阿哲郡三室で採集.....	22
三 宅 誠 治	ウラギンシジミの卵採集.....	22
藤 原 敏 栄	ムラサキシジミの産卵.....	22
難 波 通 孝	ウラナミシジミの一観察.....	22
難 波 通 孝	川上郡備中町のミヤマカラスシジミとその飼育記録.....	23
難 波 圭 吾	岡山県のミヤマカラスシジミの新産地について.....	23
難 波 圭 吾	広島県東部のミヤマカラスシジミの新産地.....	24
渡 辺 和 夫	スギカミキリを清音村で採る.....	24
難 波 通 孝	岡山県東部におけるムラサキツバメの発見.....	24
難 波 通 孝	ムラサキツバメの淡色型を採集.....	25
吉 田 徹 也	アゲハチョウ3種の幼虫採集.....	25

難波圭吾：広島県東城町のメスアカミドリシジミについて	25
河原正幸・山崎 稔：ギフチョウの産卵例	25
西島真也：ナガサキアゲハの食樹ユズ	26
三宅誠治：ミスジチョウ後期の飼育記録	26
赤枝一弘：カシワの枯枝よりヒメコブヤハズカミキリ <i>Parechthistatus gibber</i> BATES が羽化	28
渡辺和夫：ミドリケンモンの採集例	28
赤枝一弘：ミヤマサナエを新庄村で採集	28
<hr/>	
渡辺毅：ヒメシジミの分布記録取消について	20
<hr/>	
水野弘造：Maddester 雜言録(11) 昆虫採集余話	29
編集後記	30

ベニモンカラスシジミをめぐって

日 浦 勇

(〒546 大阪市東住吉区東長居町長居公園
大阪市立自然史博物館 TEL 06-697-6221)

1. はじめに

地方にあって研究目標をきめる場合、いちばん大切なのは、その地方をして地方たらしめている特殊性は何か、判断を誤らぬことであろう。国と地方とは全体と部分の関係にあるだけでなく、一般（普遍）と特殊の関係にある。部分がなければ全体ではなく、全体がなければ部分はないように、一般がなければ特殊ではなく、そして特殊がなければ一般というものは存在しない。

常識からすれば、田舎（地方）におけるよりは都会（中央）の方が研究条件にめぐまれているということになる。しかしそれは一般を主題とする場合だけであって、地方にのみ存在する特殊を材料に選ぶ場合は事情が逆転し、田舎（地方）にある方が現地という強みをもつことになる。この場合、特殊とは一般（普遍）に対してはじめて成り立つのであるから、地方を地方として性格づけているものを適確に把握すること、地方の中にある一般的なものと特殊的なものを判別することが大事だというわけである。さらに、特殊に対する攻め方（戦術）の選び方にも意を配る必要があるのはいうまでもない。

静岡昆虫同好会が草原性蝶類（広義の）に目標を集中して成功しているのは、フォッサ・マグナ 南部地方にあっていろんなタイプの草原にめぐまれているという立地条件（特殊）を正しく見ぬいたからであり、同時にそれに対して徹底した精密な分布調査という研究法（戦術）を採用したからであろう。また鹿児島昆虫同好会が迷蝶問題に成果をあげているのは、本土の最南端にあって、南からの季節風をモロにうけるという立地条件（特殊）を素直に受けとめたからであり、それを研究するのに、断片的な採集記録・発見記録を克明に集めるだけでなく、生活記録——従来の常識だった食草とか交尾飛翔形式だけでなく、生活史の全般にわたる習性や行動の記録一切——の集積に努める、といった調査法（戦術）をとっているからであろう。これが静岡で迷蝶問題を、鹿児島で草原性蝶類を目標に設定したのであれば、今日のような成果をあげるまでにはるかに長年月を要したと思われる。

もちろん、静岡や鹿児島でも、全会員が同じ主題を同じ方法で攻めているわけではない。人は一人一人気風や好みややり方がちがうし、また一人の研究者（同好者）の内部にも、いろんな興味が混在しているものである。違った主題にたいする違った攻め方は、現実にそれなりの成果をあげている。そのような個性とか人間の幅を無視して单一の型にはめてしまおうとするのは、同好会の運営としてもっともマズイやり方である。自由奔放に個性を發揮しながら、しかも高い学問的成果をあげるために、立地条件（風土といつても

よい)のもつ特殊性について、たえず思いをめぐらせる必要があると思う。

ペニモンカラスシジミに関するコメントを求められて、いきなりこのような固苦しい議論から書き始めるのは恐縮だが、私なりの苦い失敗の経験から、これを言わぬと先へ進めないので、おゆるしがしたい。この蝶が四国の皿ヶ嶺で発見され、そして乱獲(?)のために絶滅が伝えられて久しい年月がすぎた。日本特産の遺存種であろう、とは誰しも考えたことであろうが、いったいペニモンカラスシジミを皿ヶ嶺に残した歴史的経過とか自然的条件が何であったのか、産地がただ一ヶ所というのでは余りにも思考のラティチュードが広すぎた。そしてその手掛りさえも失われた時に、吉備高原での棲息地の発見は一大朗報であった。数年前にひそかなニュースとして阪口浩平さんからこの蝶の再発見を聞かされた時、成程そういうことだったのか、と膝を叩いたものである。私の早トチリかもしれないがその理由をのべてみたい。生きた蝶は見たこともないし、棲息地を歩いたこともない男のたわごととして頭の隅にとどめられれば幸いである。

2.瀬戸内の生物相を規定するもの

A. 気候と生物相

中国地方、山陽地方、岡山地方の自然——蝶をふくめた生物的自然を特徴づける最大の特殊性は何か、私はそれを乾燥気候と考える。

雨にめぐまれた日本では森林が発達し、細長い山岳列島の南から北へ、低地から高山へ、気温の傾斜に対応して亜熱帯林→照葉樹林(暖帯)→落葉広葉樹林(冷温帯)→針葉樹林(亜寒帯)と、ちがったタイプの森林が帶状(層状)に配列、生育しているというのが教科書などに書かれる日本の原植生の常識である。ちがった森林帯にはそれぞれ特有の蝶が棲息するであろうから、日本列島の蝶相も基本的に亜熱帯林型蝶相→照葉樹林型蝶相→冷温帯落葉樹林型蝶相→針葉樹林型蝶相というような地理的配列が原始には存在した、そして人工による攪乱がそれに加わった結果が今日の蝶相なのであろう——これがわれわれの頭にある常識である。しかし、実際にネットを振った経験から、このような一般常識論に何となくスッキリしないものを感じる人が多いのではないか?

生物の棲息に決定的な影響力をもつ外因として気候があり、気候因子のなかでとくに気温と降水量が重要であるという常識は認めてよいであろう。気温は極から熱帯へ向うにしたがって増大し、降水量は大まかにいって内陸から沿海地方に向って増大するという常識も信用してよいだろう。ユーラシア大陸の東岸は、熱帯から極まで、湿润気候が切れ目なくつづく世界でも珍しい地域であり、日本列島が位置しているのは、乾燥による生物相の亂れのない、湿润型の気候系列のド真中だ、という一般論もまず妥当なものである。

しかし気候図をくわしくみると、雨が多い、湿润気候だ、とはいものの、かなり寡雨の地域が日本のあちこちにあるのに気付く。年降水量が1,500mm以下の寡雨地域は、北海道(とくにその東半部は1,000mm以下である)、青森県から福島県にいたる東北地方の太平洋側、関東平野、山梨および長野県、愛知県の三河丘陵地域、それに瀬戸内地域にみとめられる。これらの寡雨地域では、多雨地域にみられる生物的自然の配列の秩序がはたしてそのままあてはまるであろうか。

このような疑問を追究してみよう。とくに気温の高い地域では、この程度の寡雨でも生物相に影響があらわれるのではないだろうか（土壤水分の蒸通発量は気温の函数であるから）。

吉良竜夫博士の提出された暖かさの指数と乾湿指数の組合せによる世界の気候区分、およびそれに対応した世界の大植生区分をもう一度見直してみると、瀬戸内では温度的には成立する照葉樹林が、寡雨（博士の区分では準湿潤気候）のために成立できなくなるギリギリの所にあたっていることになる。してみると論理的に瀬戸内の原植生は、照葉樹林と暖帶落葉樹林の移行帯であるか、あるいは照葉樹林の乾燥変形でなければならぬことになる。

吉良博士のシステムは相観による植生区分であって「優占種の論理」に立つものである。照葉樹林の外にも照葉樹は生えているし、照葉樹林中にも照葉樹林プロパーのメンバー以外の生物が混ることを容認している（vegetation と flora のちがい）。しかしここでは、優占種の論理に立っても、なお瀬戸内は日本の一般論からはみ出した特殊な生物景観が在り得るのではないか、ということを問題にしているのである。

B. 地形と生物相

日本にはめずらしい寡雨で特徴づけられる瀬戸内気候は、大地形の配列によって成立している。北の中国山脈、南の紀伊・四国・九州山脈にはさまれた東西に細長い凹地が瀬戸内なのであり、冬季の季節風は中国山脈の外側に多雪をもたらし、夏季の季節風は紀伊・四国・九州山脈の外側に多雨をもたらす。瀬戸内は南北の山脈に守られて寡雨となることは小学生でも知っている。しかしそのことが植物や小動物や昆虫や蝶の種の生存にどう反映するかは、深く考えられたことがないようである。

この寡雨地域では、寡雨であるがために、日本一般にみられる気温に応じた植生の分布帯が一様な乾燥変形をこうむっている、というだけではなさそうである。中国地方に特有の地形・地質がからんできて、生物の側の反応にいくつかのタイプが指摘される。

その第1は草原の問題である。中国地方には、有名な中国準平原面や吉備高原面をはじめとして、沖積面やおそらく瀬戸内面、段丘面、蒜山原や日本原の平坦面など、数多くの平坦面が存在する。これら平坦地形面の所々には、水はけの悪さが原因となって極相林が成立し難く、いわゆる湿原が点在している。湿原は生態学の常識では、いずれ遷移が進んで森林にかわるということになっている。果してそうなのであろうか。永久に湿原であり続けることはないにしても、乾燥気候下では遷移の速度が湿潤気候下にくらべて可成り遅れるのではないかだろうか。

同様なことは乾性の草原についても考えられる。大山などの新期火山噴出物の上には、裸地として出発してからの時間的経過が短かく、かつ土壤形成条件も原因して草原が発達している。この草原の遷移も乾燥気候下では抑制される可能性がある。乾性草原と湿性草原とは水平的に漸次移行することもあり、両者共通の草原性生物の棲みかとなっていることがある。また両タイプの草原の地理的位置や海拔高度の差などから、ちがった草原性生物の棲みかとなっている。これら草原性生物相が近隣の四国や近畿にくらべて中国地方に豊富な理由のひとつに乾燥気候を考慮すべきであろう。

第2は岩崖やガレ場、石灰岩や蛇紋岩体の特殊植生である。日本の各地でこのような地

形的・土壤的な悪条件下では、種間競争が緩和されたり、変質するので、一般的な極相林が発達しにくく、特異な種の組合せがみられたり、特殊な相観が成立するものである。これが乾燥気候下では一層助長される可能性は十分有ると考えてよいであろう。吉備高原は石灰岩・蛇紋岩の分布が多いことと、乾燥気候とが相まって特にこの問題を追究するのに適したフィールドと思われる。

第3が暖帯照葉樹林の落葉林的変質の問題である。吉良システムでは理論と現実とのズレを寒さの指数を導入することで修正し、本州の内陸部に冬の寒さに起因する暖帯落葉林帶（クリ帶）を認めており、追手門学院大学生物学研究会が最近とりまとめた蒜山地方の報告をみても、蒜山地方が完全に吉良システムのクリ帶に所属することが明らかである。問題は、中国山脈の奥ふところに冬の寒さに起因する暖帯落葉樹林帶が存在し、一方で瀬戸内の低地に乾燥気候によって暖帯落葉樹林の成立ギリギリの条件が存在する時、この地方の「暖帯林」が相観と組成双方の面で全体的に落葉林化していたのではないかという疑いである。少くとも組成の面で、紀伊半島や四国太平洋側のような湿潤気候下の暖帯林とは可成り違う筈である。

C. 大陸との近接と生物相

植物地理学では瀬戸内地方の特異性が注目されている。前川文夫博士の日本の植物区系区分では、岡山県を中心とする阿哲地域が、ひとつの地理区として独立されている。また北村四郎博士が満鮮要素と呼んだ植物の種が多く分布する地域として知られている。満鮮要素は、気候的には少雨量の地域、あるいは乾燥した植生条件の場所を好む傾向がいちじるしい（堀田、1967）。つまり植物の方では、瀬戸内の寡雨地に特産する種の多くは、朝鮮や満洲から由来したと考えられているようである。

これは気候の類似からみれば当然かもしれない。アジア大陸内部の乾燥帶は、満洲、朝鮮に及んでいる。その尖端が、海をこえて西日本にとどいている。つまり瀬戸内は、ユーラシア東縁の湿潤気候系列中に位置する日本に向って、内陸アジアから打ちこまれた「乾燥のクサビ」と見なすことができる。クサビに沿って、内陸アジア的な植物が瀬戸内に入りこんでいるのは当然であろう。

蝶ではどうであろうか。はたして瀬戸内の草原や湿原、ガレ場や石灰岩体の特殊植生、落葉林的な暖帯林にもすびつく蝶たちは、アジア内陸から西日本に打ちこまれた乾燥のクサビに乗じて侵入してきた連中なのであろうか。

ここまで考えてきて、はじめて蝶自身のもつ性格の検討が必要不可欠になってくるのである。

3. 瀬戸内の蝶の系譜

A. ひとまずの整理

すでにのべてきたことから、瀬戸内に特徴的な蝶たちをピック・アップし、棲息地からみたタイプわけを試みてみよう。

- ①湿原～草原の蝶 ヒメシロチョウ・ヒメヒカゲ・ヒヨウモンモドキ・ウスイロヒヨウモンモドキ・ヒメシジミ・ゴマシジミ・コキマダラセセリ・ホシチャバネセセリ・ギンイチモンジセセリ・スジグロチャバネセセリ・ヘリグロチャバネセセリ・ミヤマチャバ

ネセセリ？

②岩崖～ガレ場の蝶 スジボソヤマキチョウ？・ホシミスジ・クロツバメシジミ・ベニモンカラスシジミ・ウラキンシジミ？

③暖帶落葉林の蝶 ギフチョウ・ヒロオビミドリシジミ・ウラジロミドリシジミ・ウラナミアカシジミ・（クロミドリシジミ）・クロシジミ・キマダラモドキ？

以上は私なりの試案の段階であることをお断りしておきたい。

B. 地理的分布からみた蝶の比較

中国山地の湿原～乾性草原にむすびつく蝶の地理的分布をみると、コキマダラセセリ・ゴマシジミ・ヒメシジミ・ウスイロヒョウモンモドキ・ヒメヒカゲの5種は、ヨーロッパまでユーラシア大陸の寒冷地に広く分布する種であり、ヒメシロチョウもバイカル・アルタイ地方まで、これに準ずる分布をもっている。このような広分布の種は、地史的な意味での最近に生れた「若い種」である、と私は考える。したがって日本へも比較的最近になって侵入してきたものと考える。

また、これらの種のぞくするそれぞれの属の各種は、いずれも旧北～全北区の草原性の蝶である（つまり属全体が草原性）からして、もともと草原性の属としての性格が確立された（乾燥化の歴史からすれば、たぶんアジア内陸で）のちに、現代的な種が分化・誕生し、棲息範囲を次第に拡げてついに日本にも至った、という過程が推定されるわけである。

ところが、ヒョウモンモドキ・スジグロチャバネセセリ・ヘリグロチャバネセセリなどは、属としては旧北区に広分布して草原性であるが、種はアジア東北部に局限されている。これらの種は、草原性の蝶として確立された属のなかから北東アジアで生れて未だ広分布するに至っていないか、あるいは北東アジアで遺存化しつつあるか、のいずれかと思われる。

三番目にホシチャバネセセリ・ギンイチモンジセセリなどは、上の2群とは可成り様子がちがっている。ギンイチモンジは1属1種で華北から日本にかけての遺存種と考えられるし、ホシチャバネは熱帯性の属の北方適応型（かつて暖かかった時代に北へ拡ったもののレリック？）であるらしい。

このような考え方からすれば、中国地方の湿原～乾性草原の蝶相は、新しい種と古い種の混合であるが、なお新期侵入者が優勢な蝶相である、といってよいであろう。

これにたいして、暖帶落葉樹林とむすびつく蝶類は、属・種ともに東アジア（又は日本）に固有であって、遺存的であり、その歴史はかなり古いと考えられる。また、岩崖・ガレ場・やせ尾根の蝶も、日本や東北アジアの固有種で、遺存的性格がつよく、その歴史は古いように思われる。

以上を整理すると、瀬戸内の乾燥気候下の植生では、草原的な環境とむすびつく種は歴史が新しく、侵入者的であり、より森林的な環境とむすびつく種の歴史は古く、土着的・遺存的である、という大ざっぱな性格づけが出来そうである。

これを瀬戸内の地史と結びつけて考えてみよう。南北両山地にはさまれた細長い低地という大地形の歴史はかなり古く、直接には第四紀の地殻変動によって形成されたものであるが、その基礎に鮮新世の後期からはじまる第二瀬戸内累層群堆積期の地形があり、さら

にその基礎に中新世中期の第一瀬戸内の地形がある。

中国山地湿草原の新期侵入者は、おそらく最近の氷期にアジア内陸から打込まれた乾燥のクサビと共に由来し、大山などの火山活動による裸地・草地の形成・維持に助けられて温存したものであろう。しかしその以前に、今日と大局において共通する形の大地形（古瀬戸内低地帯）に守られて乾燥気候と乾燥植生が存在したのであり、そこに入りこみ、あるいは遺存化した蝶が生存したのが今日みられる狭分布性の種ではないかと思われる。

このような検討をこれから進めてゆくにあたり、堀田満博士（1967）の次のような指摘を念頭にとどめることが必要であろう。

「ツチグリ *Potentilla discolor* は日本列島では西南日本にだけ分布し稀なものである。知れる範囲での生活場所は陽乾地性の草原で、南は台湾まで分布するが、多いのは朝鮮から満洲、北支にかけての地域である。」「北村が満鮮要素とよび、草原型の生活場所を要求したり、乾燥地に生活場所を有する植物群に所属する種の多くはツチグリ型の分布を日本列島内では行なう。これらのものは分類群としては大陸の系統と区別出来ないものが多いし、少雨量、乾燥という大陸的な気候条件とむすびついた分布をするものが多い。そのようなことからは、この型の分布をする植物群は第四紀の寒冷な時期の西南日本の低温、乾燥とむすびついて日本列島に侵入したものと考えられる。」中略「いわゆる満群要素とよばれる植物群が、中央アジア的な草原という植生類型とむすびついた生活形を有してはいるが、系統的には中央アジア的な要素とはむすびつかない、どちらかというと東亜区系の森林とむすびついた生活をしていた植物群から草原型へ生活形を変化させて特殊化したものがあること、それらが固有属を生じるほど長い歴史を有することを明らかに示している。」

C. ベニモンカラスシジミの系譜

本種のぞくするカラスシジミ属 *Strymonidia* には約30種が知られていたが、いくつかは *Nordmannia* として分離される。また *pruni* リンゴシジミを北米の3種とともに *Euristrymon* とする人もある。

Spini ヒメツマアカカラスシジミは南欧・中欧から小アジア、レバノン・イラク・イラン、アムール・朝鮮・華北に分布し、食樹は *Rhamnus* である。

W-album カラスシジミはヨーロッパから日本に分布し、食樹は *Ulmus* (ハルニレ・コブニレ・オヒョウ・ヨウシュハルニレ *U. glabra*)、ライムを挙げている本がある。

Pruni リンゴシジミはヨーロッパからシベリアをへて、アムール・朝鮮・北海道にいたる。食樹は *Prunus*。この3種が旧北区広分布型の種である。

中近東あたりには *ledereri* (小アジア～アルメニア), *lunulata* (中近東), *sassanides* (トルkestan～カシミール, バルチスタン・チトラル～ムズーリ), *myrtale* (レバノン高地)などがあるが、すべて狭義の *Strymonidia* にぞくするのかどうか私は知らない。

東北アジアには *eximia* チョウセンツマアカカラスシジミ (ムシャカラスシジミ, アムール・満洲・朝鮮・華北・華中・モンゴル・台湾), *herzi* チョウセンカラスシジミ (アムール・朝鮮), *prunoides* (アムール・朝鮮), *mera* ミヤマカラスシジミ (日本特産, 朝鮮?), そして *iyonis* ベニモンカラスシジミがある。

中国にはもっとも種数が多く、*grandis*, *inflammata*, *lais*, *oenone*, *ornata*, *patrius*, *percomis*, *rubicundula*, *thalia*, *v-album* の10種が知られている。

台湾には *esakii* エサキカラスシジミ (*patrius* に近似), *austrina* ウラジロカラスシジミ, *formosana* タイワンカラスシジミ (*grandis* に近縁), *inouei* イノウエカラスシジミ (*w-album* 近縁), *tanakai* タナカカラスシジミ, *watarii* ワタリカラスシジミの特産6種と *eximia* が知られている。

この他 *mackwoodi* がビルマ (マニプール～北シャン州) に知られる。

北米には *Euristrymon* として次の3種が知られる。 *Polingi* (テキサス西部), *favonius* (フロリダ～ジョージア, 食樹は oaks), *ontario* (オンタリオ・マサチューセッツ～ニューメキシコ・アリゾナ, 食樹は *Quercus* と *Crataegus*)。

知られるかぎりすべての種は年1化性で初夏に成虫が出現するというライフ・サイクルをもっている。文献の調査が不十分なので、多分に修正が必要であろうが、上のリストから *Strymonidia* 属のだいたいの地理的性格をうかがうことができる。カラスシジミ属は属全体としては旧北区のほとんど全域をカバーしており（ただし北アフリカには棲息しない）、種数からみればその大半は中国大陆中南部に集中し、台湾山地と日本をふくむ東北アジアに若干の種が重複棲息、そして *w-album*, *spini*, *pruni* の3種だけがユーラシア北部に広分布ということである。

おそらくアジア大陸で発祥し、1化性で落葉林とむすびつき、大多数は遺存化していくが、少数の種が発展して北方に分布を拡大した。ベニモンカラスシジミは属の発展期（新第三紀？）に日本に侵入し来たり、しだいに勢力を失って瀬戸内の乾燥地に遺存したのであろう。難波さん等の報告によるとキビノクロウメモドキ *Rhamnus yoshinoi* とのむすびつきが強いようであるが、この植物は朝鮮にもあるので、将来蝶もまた朝鮮で見つかる可能性がある。

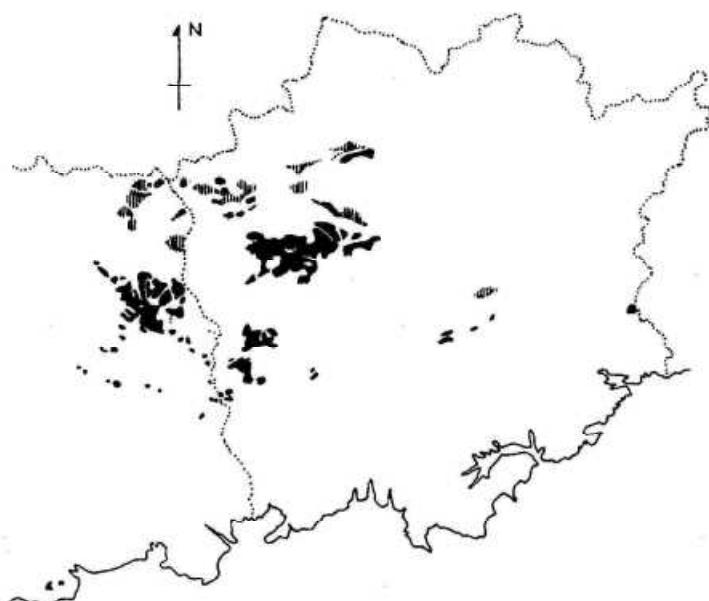
中国特産の蝶の中には *v-album* のようなベニモンによく似た種があるので、将来精密な分類学的調査によって *iyonis* の系譜が明らかにできる可能性がある。たしか白水先生のお話だったと思うが、大英博物館には中国大陆産のカラスシジミ類の未整理標本がゴッソリ保管されているということである。

今われわれの力でできることは、そうした世界的視野での研究にくらべて見劣りがしたり、価値の少ない作業なのではない。土地の条件と蝶の生活との結びつきを正確に認識すること、ベニモンカラスが何故そこで種を維持でき、何故そこでしか種を維持できなかつたかを明らかにすることは生物学の本命ですらあるといえよう。それができるのは地元の人だけである。ベニモンカラスシジミの徹底的な調査をのぞんで筆をおくこととする。

(1973年9月2日)

図 説 明

広島県東部と岡山県における石灰岩の分布（黒色部）。参考のために蛇紋岩の分布も記入してある（タテ線）。キビノクロウメモドキとそれを食べるベニモンカラスシジミの分布がどの程度この図と合致するか解明が望まれる。（岡山大学理学部地学教室編集1/20万「岡山県地質図」および広島大学調査にもとづく1/20万「広島県地質図」1963より作図。1/17万「兵庫県 地質鉱産図」によれば、兵庫県西部にはきわめて小規模な石灰岩岩体しかない。）



文 献

- 日浦 勇 (1972), 日本における草原性蝶類の史的背景, 昆虫と自然, 7(1): 28~33
—— (1973), 海をわたる蝶, pp.200 (蒼樹書房)
- 堀田 満 (1967), 日本列島における植物地理の若干の問題, ミチューリン生物学研究, 3(2): 122~135
- 今西錦司・吉良竜夫 (1953), 生物地理, 新地理学講座4「自然地理 II」, pp. 235 ~ 313 (朝倉書店)
- 倉敷昆虫同好会 (1972), 岡山県の蝶, すずむし, 108: 1 ~ 62
- 難波・那須・難波・中村 (1972), ベニモンカラスシジミ 吉備高原亜種の分布と生活史, すずむし, 109: 3 ~ 8, 1 pl.
- 追手門学院大学生物学研究会 (1973), 蒜山の生物調査報告, pp.274 (同会)
- 和達清夫監修 (1958), 日本の気候, pp.492 (東京堂)

ベニモンカラスシジミ中国地方亜種 の新知見

難波通孝

(岡山市北長瀬434)

Strymonidia iyonis kibiensis SHIRÔZU et NANBA ベニモンカラスシジミについて、その分布と生活史を“すずむし”第109号(1972年8月)において、その概要を述べているが、その後新しく判明した事実や、より詳しく観察したステージもあり、それ以降の観察をまとめ、ここに報告する。

本文に先立ち、これをまとめるにあたり、貴重な採集データを心よく提供していただきたい、新見市正田広瀬の渡辺毅氏、総社市上原の難波圭吾氏、児島郡瀬崎町の三宅誠治氏にはここに深く感謝いたします。

今年は成虫の活動観察を主目的としたため、その活動状態はかなり詳しく知ることが出来た。配偶行動、産卵行動については再三現地を訪れたが、観察することが出来なかつたので以後継続して調査する。

[I] 新産地

- 1) 広島県神石郡神石町において16.VII.'72、キビノクロウメモドキより5卵採集
- 2) 岡山県阿哲郡神郷町においてエゾクロウメモドキより3卵採集(難波圭吾氏採卵)
尚2ヶ所とも同じ木よりミヤマカラスシジミの卵を得ている。

[II] 産卵位置

今までに確認されている産卵位置は小枝と短枝の分岐部、又は小枝上であったが、幹上の樹皮のうげた内側、幹にツルがまきついている時はその接している部分に確認され、小枝と短枝分岐部の下部にも2卵(従来は上部のみ)見い出した。又、三宅誠治氏により成羽町にて21.III.'73、キビノクロウメモドキの小枝分岐部に卵の上下が逆に産み付けられた異常産卵もあったが、これは孵化しなかった(右図)。1ヶ所に産卵された個数としては、2卵から6卵(6卵の時は1例)までかなりの数を確認しており、特に幹上の樹皮のうげた所に産卵する場合は、2卵~4卵が多い、このように産卵位置もかなり広範囲に及ぶことがわかった。



キビノクロウメモドキに上下が逆に産卵されたもの

[III] 成虫の活動

活動時間について、その多くは“すずむし”第109号に発表している通りであるが、まれに12時~午後1時頃の間にも不活発ではあるが日光浴をしているのも認めた。よく静止する植物として確認出来たものは新見市ではアカシデ、シナノガキがほとんどでマルバアオダモ、ヤマウグイスカグラ、ティカカズラも訪れた。成羽町では、シナノガキ、ノグルミ、ヌルデがほとんどでアカシデ、ウラゲアオダモにも訪れた。

〔すずむし、第110号、9~11頁、1973年12月〕

♂は活動を始めるとアカシデ、シナノガキ、ノグルミの葉上をとびかい、葉上に止っては日光浴をする。葉上に止まると葉の先端近くまで歩き、日光の良く当るように体を向け、斜めに翅をかたむける。斜めになって日光を受けながら後翅をすり合わせる習性もある(図版3、4)。シナノガキ、ノグルミ等の葉上に止まり日光浴をする場合その静止する位置によっては翅をかたむける角度が水平、あるいは、それ以上になる時もある(図版5)。葉上にいる時、他の蝶等が近づくと、その後を追跡する。又物を投じてもこの後を追うことがある。2個体の♂がテリトリーを争いもつれることもしばしばあるが、他の蝶に見られる程長いものではなく数秒で分れる(図版1)。静止している小枝をゆさぶってもなかなか飛び立たない時もある。ほとんどは葉上に止まるがシナノガキの小枝に止まり休んでいるのも確認した(図版2)。葉上に静止中にときおり強い風が吹くことがあるが、風が無風となるまで、その葉より飛び去らない。又、新見市での観察でティカカズラにクモの巣があり、♂の前翅が1枚かかっていた。発生初期の5月30日であり自然の死とも思えないのでクモの餌になったものと考えられる。6月に入ると晴天無風の状態でも午前中の♂の活動はあまり認められなくなり個体数も減る。これは♀の発生期に入るからか、調査を要する。6月3日、初めての♀を確認した(成羽町)。雄の活動する場所は限られており、次にあげる共通する条件が見られる。①発生地付近である。②風が吹いても、その影響を受けにくい場所である。③少し開けている。④日光浴をするのに静止しやすい木がある(シナノガキ、ノグルミ、アカシデ等)。又、翅を斜めにして日光浴をする時間については発生の初期においては、30秒程度で位置をかえる場合が多いが、6月9日の観察では斜めにしたまま、3分~5分に及ぶ時もあった。6月に入り、♀を3回確認したが、いずれもかなり風が吹き、曇りの日でどこからともなく現われ、その飛び方に落ちつきはなく飛び去っていった。訪花については、6月10日~6月15日にわたり渡辺毅氏により、♂、♀ともに確認、採集されているので次に記録しておく。

- ① 新見市正田(いずれもウツギの花にて)

2 ♂・1 ♀, 10. VI. '73, 晴, 午後1.30~2.00	1 ♀, 11. VI. '73, 晴, 午後3.00
1 ♂・1 ♀, 12. VI. '73, 晴, " 4.00	1 ♀, 14. VI. '73, 曇, " 3.00
- ② 新見市下長屋(ウツギの花にて)

1 ♀, 15. VI. '73, 晴, 午後4.30

[IV] 異常型

裏面の白い斑点の列について、飼育によって羽化した個体の中に前翅、後翅共に消失かけているものが1個体確認された(東城町産)(図版6)。

[V] 地理的変異

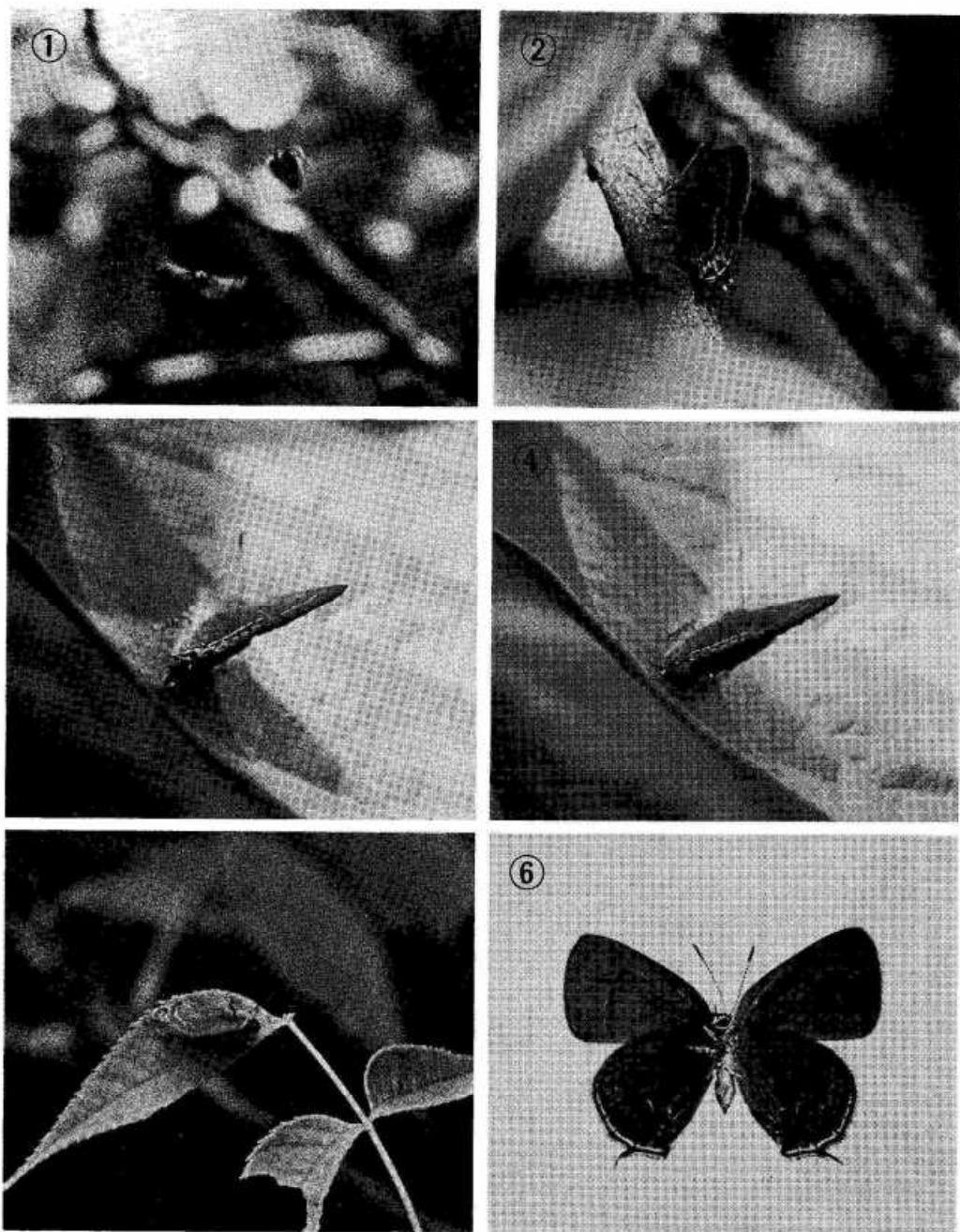
多くの個体を比較して見ると中国地方亜種の中でもわずかながら産地別に変異を見ることが出来る。同一産地の中でもその個体変異がやや不安定な所と、芳井町産のように極めて安定している所とがある。詳しくは今後の調査に期待したい。

参考文献

1. 白水隆、難波通孝(1973), ベニモンカラスシジミの1新亜種、蝶と蛾, 23(3・4)
2. 難波通孝外(1972), ベニモンカラスシジミ吉備高原新亜種の分布と生活史,
すずむし, 第109号

すずむし, 110号, 図版

Strymonidia iyonis kibiensis SHIRÔZU et NANBA ベニモンカラスシジミ



(M. NANBA Photo)

図版説明

- ①テリトリーを争う2頭の♂, 4.VI.'73(成羽町) ②シナノガキの小枝上に小休止する♂ 30.V.'73(新見市) ③, ④シナノガキ葉上で翅を斜めに傾け後翅を交互にすり合わせながら日光浴をしている♂, 30.V.'73(新見市) ⑤ノグルミの葉上で翅を水平に斜け日光浴する♂, 4.VI.'73(成羽町) ⑥飼育によって羽化した異常型♀(広島県比婆郡東城町産)

岡山県のゼフィルス分布生態メモ

中 村 具 見

(総社市真壁1048)

昨年発行された本誌108号“岡山県の蝶”により過去の記録が収集整理され、県下の蝶相の概要が明らかにされたが、その後判明した新知見のうちゼフィルス類についてまとめてここに報告しておく。資料を提供して頂いた会員諸氏に感謝します。

1. *Ussuriana stygiana* BUTLER ウラキンシジミ

新見市石蟹 (230m), 5卵, Mar. 11, '73, トネリコsp., 中村具見 (T. N)

清音村黒田 (50m), 1♀, July 16, '73, 藤原敏栄 (T. F)

中国山地と南部の低山丘陵地域に記録が集中しており、吉備高原では殆んど記録されていない。

2. *Japonica lutea* HEWITSON アカシジミ

神郷町三室～三国山 (650m), 2卵, Mar. 12, '72, T. N

神郷町上油野～三室 (450m), 1ex., July 2, '72, 難波圭吾 (K. N)

神郷町下油野 (350m), 1卵, Apr. 8, '73, カシワ

川上町八十石 (160m), 2卵, Mar. 22, '72, ナラガシワ, K. N

清音村黒田 (50m), 2卵, Dec. 12, '72, クヌギ

灘崎町片岡 (60m), 終齢幼虫1頭, May 3, '73, アラカシ, 三宅誠治 (S. M)

県下に広く分布し既にアベマキ, コナラ, ナラガシワより採卵されているが、ミズナラ, カシワ, クヌギは初記録である。また、アラカシも幼虫が得られたことから、食樹となっている可能性は強い。

3. *Antigius attilia* BREMER ミズイロオナガシジミ

上斎原村三ヶ上 (700m), 2卵, Dec. 29, '72, ミズナラ, T. N

大佐町大佐山 (650m), 2♀, Aug. 15, '72, T. N

新見市石蟹 (240m), 3卵, Mar. 11, '73, アベマキ, T. N

神郷町下油野 (350m), 1卵, Apr. 8, '73, カシワ, (T. F)

灘崎町片岡 (60m), 終齢幼虫1頭, May 3, '73, アラカシ, S. M

アラカシから終齢幼虫が得られ、また産卵も観察されていることから食樹となっていることは確実である。カシワより採卵されたのは初めてである。

4. *Antigius butleri* FENTON ウスイロオナガシジミ

川上町八十石 (160m), 5卵, Mar. 22, '72, ナラガシワ, T. N

総社市楓 (60m), 2exs., June 20, 26, '69, 近藤要一 (Y. K)

清音村黒田 (50m), 3卵, Jan. 26, '73, ナラガシワ, T. F

灘崎町片岡 (60m), 3卵, Jan. 28, '73, ナラガシワ, S. M

灘崎町片岡 (60m), 終齢幼虫2頭, May 3, '73, ナラガシワ, S. M

灘崎町片岡 (60m), 2exs., June 7, 10, '73, S. M

広く分布しているが局地的で少ないゼフィルスである。

5. *Wagimo signata* BUTLER f. *quercivora* STAUDINGER ウラミスジシジミ

新見市井倉～草間 (180m), 約30卵, Mar. 8, '72, アベマキ, ナラガシワ, T.N, K. N

新見市千間 (270m), 16卵, Mar. 27, '72, アベマキ, コナラ, T. N

新見市草間 (360m), 3卵, Mar. 10, '73, アベマキ, T. N

新見市石蟹 (240m), 16卵, Mar. 11, '73, アベマキ, ナラガシワ, T. N

中国山地を除くと新見市草間と臥牛山に記録があるにすぎない。新見市井倉から石蟹にかけての石灰岩台地周辺には、広く分布しているようである。食樹はコナラしか記録されていないが、更にアベマキ、ナラガシワより多数採卵され、これらも主要な食樹と考えられる。

6. *Iratsume orsedice* BUTLER ウラクロシジミ

神郷町上油野～三室 (500m), 1 ♂, July 2, '72, K. N

脊梁山地に数ヶ所の産地が知られるだけで、備中地区からは初記録である。採集地付近にはアテツマンサクが多い。

7. *Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER メスマカミドリシジミ

神郷町三室～三国山 (650m), 7卵, Mar. 12, '72, サクラ sp., 難波通孝 (M. N)

K. N, T. N

神郷町三室～三国山, 1 ♂, July 3, '72, K. N

神郷町三室～三国山, 3卵, Apr. 7, '73, サクラ sp., K. N

上斎原村平作原 (650m), 3卵, Dec. 9, '72, ヤマザクラ, K. N

上斎原村三ヶ上 (750m), 6卵, Dec. 29, '72, サクラ sp., M. N, K. N, T. N

中国山地に点々と記録されており、一般に個体数は多くないようである。サクラ類は識別が難しい為確認していないが、種々のサクラを食すものと思われる。

8. *Chrysozephyrus aurorinus* OBERTHÜR アイノミドリシジミ

神郷町三室～三国山 (650m), 13卵, ミズナラ, M. N, K. N, T. N

脊梁山地に数例記録があるのみで、備中地区初記録である。三室部落より三国山に至る林道沿の小さな沢で採卵した。卵は例外なくミズナラ休眠芽基部に1～2卵ずつ産付されていた。

9. *Favonius saphirinus* STAUDINGER ウラジロミドリシジミ

神郷町下油野 (350m), 1 ♂, July 2, '72, K. N

神郷町下油野 (350m), 1 卵, Apr. 7, '73, カシワ, K. N

神郷町下油野 (350m), 10卵, Apr. 8, '73, カシワ, M. N

神郷町下油野 (350m), 1 ♂, 2 ♀, July 27, '73, T. F

川上町八十石 (160m), 約20卵, Mar. 22, '72, ナラガシワ, T. N, K. N

佐伯町苦木 (60m), 4 ♂, 10 ♀, July 23, '73, T. F

英田町妙見山 (440m), 1 ♂, 2 ♀, July 23, '73, T. F

柵原町王子 (50m), 1 ♀, June 24, '73, K. N

総社市槻 (60m), 10 exs., June 18, 20, 26, '69, Y. K

総社市槻 (60m), 25卵, Dec. 26, '71, ナラガシワ, T. N, K. N

灘崎町片岡 (60m), 11卵, Apr. 6, '72, ナラガシワ, S. M

灘崎町片岡 (60m), 3 ♂, 1 ♀, June 6, 10, 18, '72, S. M

玉野市用吉 (160m), 20卵, Apr. 17, '73, ナラガシワ, S. M

局地的ながら広く分布し特に吉備高原のナラガシワ林には殆んど棲息しているといえる。本種は西南日本ではナラガシワの林に限って棲息し、カシワ林にはハヤシミドリがいて本種の発見された例はない(白水1965日本の蝶)とされているが、下油野ではナラガシワと混生したカシワから採卵された。同時にカシワよりハヤシミドリも得られておりこの地域で両種が混棲していることは確実である。ナラガシワの方は未だ調べられていないようである。

10. *Favonius orientalis* MURRAY オオミドリシジミ

大佐町大佐山 (650m), 2 ♀, Aug. 15, '72, T. N, K. N

英田町橋本 (60m), 1 ♀, June. 24, '72, K. N

吉永町今崎 (150m), 1 ♀, June. 23, '73, K. N

清音村黒田 (50m), 11卵, Jan. 26, '73, クヌギ, T. F

広く分布する蝶で“岡山県の蝶”にもデータは示されていないが参考までに記す。大佐山のような高地では8月中旬でも♀の残存個体が見られる。

11. *Favonius jezoensis* MATSUMURA エゾミドリンシジミ

神郷町三室～三国山 (650m), 1 卵, Mar. 12, '72, ミズナラ, T. N

県北部脊梁山地より数例記録されているに過ぎず備中地区初記録である。本種は普通、細枝分岐点上部などに産付するが、この時はミズナラ休眠芽基部より1卵得たのみで他には全く発見出来なかった。

12. *Favonius ultramarinus* FIXSEN ハヤシミドリシジミ

大佐町大佐山 (700m), 4 ♀, Aug. 15, '72, T. N

神郷町下油野 (350m), 5 卵, Apr. 7, '73, カシワ, K. N

やや高地に生えるカシワのみに依存して分布するが、下油野は県下で最も低標高の産地である。前記の如く同地ではウラジロミドリと混棲している可能性が強いが、ナラガシワの分布しない高地のカシワ林では常に本種しか棲息していないようである。

13. *Favonius latifasciatus* SHIRÔZU et HAYASHI ヒロオビミドリシジミ

総社市楓 (60m), 5 ♂, 3 ♀, June 18, 20, 26, '69, Y. K

総社市楓 (60m), 8 卵, Dec. 26, '71, ナラガシワ, K. N, T. N

総社市楓 (60m), 8 ♂, 4 ♀, June 20, '73, T. N

本種の食樹であるナラガシワは、殆んど全県下に広く分布しているにもかかわらず本種の発見されていない地域は多く、特に吉備高原東半では殆んど記録がない。同じナラガシワを食樹とするウラジロミドリが広く分布しているのと対照的である。総社市楓は今の所本種の南限でありまた最も低地にあたる。

14. *Favonius cognatus* STAUDINGER ジョウザンミドリシジミ

神郷町三室～三国山 (700m), 1 ♂, July 3, '72, K. N

神郷町三室～三国山 (650m), 1 卵, Apr. 7, '73, K. N

中国山地に知られるが記録は極めて少ない。三室でも個体数は多くない。

参考文献

- 1) 白水隆 (1965), 日本の蝶 (北隆館)
- 2) 倉敷昆虫同好会 (1972), 岡山県の蝶

〈おとしぶみ〉

ヨツボンチビヒラタカミキリ岡山県内の新分布地

割に珍しい種ときき、食樹もあわせて報告する次第です。本種は県内では、高梁市臥牛山、苦田郡上斎原などで既に採集報告されている。今回、報告するものは次の通り。

1. 真庭郡毛無山
1 ex., 28. V. 1972, 青野孝昭採集。
2. 新見市大佐山

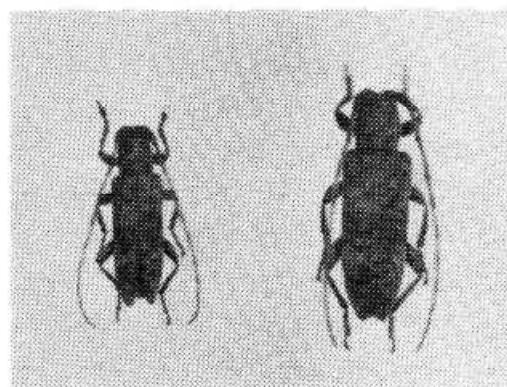
6~10. IV. 1973 に当地で採集したカシワの枯枝より多数羽化脱出 (倉敷にて).
(青野雅樹)

ヒトオビチビカミキリの記録

ヒトオビチビカミキリ *Sybra unifasciata* FUJIMURA は『原色日本昆虫生態図鑑、カミキリ編』によれば「7~8月紀伊半島・九州北部などの温帯林帶で伐採枝などに集まるが個体数は少ない。」とありますが、恐らく県下でも初めての種と思われますので報告します。データは次のとおり。

30. V. 1971 (羽化), 体長 9.5 mm, 高梁市臥牛山 (Fig. 1); 1 ex., 2. VII. 1972, 体長 12 mm, 苦田郡上斎原村三ヶ上山 (Fig. 2)

なお、臥牛山産のものは同年5月26日、頂上付近のカシ類枯枝より蛹を得たもので、三ヶ上山産は中腹の太い生ヅルの beating で得たものです。いずれも日陰のかなり湿った所だったのは興味深いと思います。
(那須 敏)



(Fig. 1)

(Fig. 2)

ツマグロキチョウ *Eurema laeta bethesba* JANSON の生態小観察

難　波　通　孝

(岡山市北長瀬 434)

筆者はツマグロキチョウの生態について過去数回にわたりその訪花、交尾、産卵、休息、及び幼生期を観察しているので次に報告しておく。

岡山市足守下土田の堤防にて 13.VIII.'72, 午前10時頃数頭の母蝶がカワラケツメイの付近を離れず、食草に止まるとすぐ産卵にうつり、時間にして約5秒を要す。1分間に他のカワラケツメイにと、3卵から5卵の割合で産卵した。途中食草以外のコマツナギ等にとまるが、その場合はすぐ飛び去ってしまう。又産卵してからコマツナギの花を訪れ吸蜜したのを確認したが数秒で止め、また産卵行為へと移った。尚産卵位置はカワラケツメイの若葉を選び、ほとんどが葉表の先端近くであった。又、岡山市畠鮎東平にて、13.IX.'72 カワラケツメイより若齢幼虫2 exs., 中齢3 exs., 終齢 3 exs., そして蛹3個体を採集した。尚蛹化位置は食草の茎、葉、実に上向きに蛹化していた。又、岡山市操山にて、9.IX.'72, ヤマハッカに訪花を見、同じ花にキチョウも訪れ、互にもつれるような飛び方を見せた。岡山市畠鮎東平において 20.IX.'72, 次の観察をしている。カワラケツメイより終齢幼虫2 exs. を採集し、成虫の吸水も確認した。そしてアメリカセンダングサへの訪花を見た。又、同所において 14.VIII.'73, サワオトギリに訪花し、カワラケツメイより卵も認められた。天候はあまりよくなかったが午前9~10時頃は4~5頭が活発に飛んでいた。昼頃になると付近の草の葉裏にとまり休んでいるものをいくつも確認出来た。

次に赤磐郡瀬戸町山の池にて 18.VIII.'73, 多数の個体が一面に飛んでおり色々なステージが観察された。付近にはカワラケツメイが多く自生しており、午前11時頃には幾頭もの母蝶が産卵していた。産卵姿勢は葉上にとまり、頭部を茎の方に向け、葉上先端近くに産卵するケースがほとんどであった。母蝶はカワラケツメイをさがして低く飛びまわり、ときおり、ヤハズソウやコマツナギを訪れるがそれはとまるかとまらないうちに去ってしまう。感触がカワラケツメイと違うのかもしれない。訪花については、ダイズ、コマツナギ、ヤハズソウ、キツネノマゴ、クルマバナ、そして付近の民家に植えられていたムラサキカタバミ、ルリトラノオを確認した。又交尾している個体を2例観察出来たが、交尾中の飛翔は♀が行ない♂は♀に連行され飛翔はしないことが認められた。交尾中に♀がダイズの花に訪花したのも認めた。訪花姿勢は翅を閉じたまま行なう。又、中齢幼虫1頭を葉上より得た。又、同じく瀬戸町山の池にて、21.VIII.'73, オトギリソウ、ブタナ、及びネバリノギクに訪花を見、翅をひろげることはない。産卵の途中コマツナギの花を訪れた♀に配偶行動を示した♂を見たが交尾は行なわれなかった。休息する場所としてはダイズの葉裏とか、チガヤ、あるいはイネの葉に上向きに静止する場合が多く、少し日のかける所がほとんどであった。この場合も翅は開かない。又、24.VIII.'73、岡山市金山にて小雨の中をオオニウガギク、コマツナギの花を訪れていたのも確認した。尚訪花植物は赤磐郡瀬戸町山の池の大久保一治先生に同定していただいたのでここに深謝致します。

岡山県未記録の蛾数種

渡辺 昭彦

(倉敷市上東)

1971年秋標本整理のため、楳本精二氏に蛾（おもに家の近くで採集したもの）の同定をしていただいたところ、少數ながら下記未記録種が含まれていたものです。非常に丁寧な同定及び御教示下さった楳本精二氏に深く感謝いたします。

1. *Leucoma candida* STAUDINGER ブチヒゲヤナギドクガ

倉敷市上東, 1 ♂ 2 ♀, X.'70

近くの学校のヤナギで6月下旬～7月ごろと、9月～10月ごろかなりの数がみられる。

2. *Trichopteryx fastuosa* INOUE シロシタコバネナミシャク

高梁市臥牛山, 1 ex., 22. III. '71

頂上近くで昼間飛んでいたもので、この日はほとんど何もそれなかった。

3. *Operophtera brumata* LINNAEUS ナミスジフユナミシャク

倉敷市二子, 1 ex., 15. I. '71

夜間燈火に飛来したもの。

4. *Cataprosopus monstrosus* BUTLER マエグロノメイガ

苦田郡上斎原村人形峠, 1 ex., 28. VII. '70

楳本精二氏によると既に県内産の標本があるとのことです。筆者は、本誌、101号を読みながら、最後までアツバの一一種と考えていた。また、この個体は、本誌、107号に筆者が発表したコウチスズメ、スギタニゴマケンモンと同時に採集したものです。

5. *Sclerocona acutella* EVERSMANN タテジマノメイガ

倉敷市上東, 1 ex., X.'70

《おとしぶみ》

モリヤママドガ矢掛町の記録

Herdonia osacesalis osacesalis WALKER モリヤママドガは主として西日本の平地に産する少ない種で、既に県下に産することが知られているが、筆者はあらたに小田郡矢掛町での記録を報告する。

2 ♀, June 22, 1970

1 ♀, July 6, 1973

なお、参考までに、1970年のものは、午後6時頃自宅付近のザクロ葉上に静止していた数個体から、1973年のものは、同じく午後5時頃矢掛高校前の看板上に静止していた個体をいすれも手づかみで採集した。(守屋健次)

鳥取県東部のヤマキマダラヒカゲについて

竹 内 亮

(鳥取市本町 5-202)

日本産キマダラヒカゲは高橋真弓氏の1968年以降の研究によりヤマキマダラヒカゲとサトキマダラヒカゲの2種に分類し取扱われる事となった。鳥取県西部のヤマキマダラヒカゲについては三島寿雄氏による日野郡日野町黒坂、西伯郡中山町鳥取県民の森での記録があるが鳥取県東部の分布に関しては今迄報文が見当らない。

筆者は今年(1973年)本種について探究したところ、鳥取市雁金山(標高135m)、久松山中腹(100m)、卯垣(平地)及び八頭郡智頭町物見峠(600m)にて本種を採集した。又畏友岡垣弘氏は八頭郡佐治村尾際(380m)にても採集しているが、いずれの地点でもサトキマダラヒカゲと混棲していた。

上記採集地点中、鳥取市内の例は海岸線より直線距離約3.5kmの雁金山があり、又鳥取市郊外の市街地に接する卯垣で採集されている点、鳥取市内で本種は久松山塊(最高久松山264m)を中心に想像以上に低地・海岸寄りに分布していると思われる。又智頭町物見峠の採集地点は鳥取県側であるが、同峠が鳥取岡山県境であることを考えると岡山県東部山岳地帯(少くとも苦田郡・勝田郡)にも本種が分布しておると想像される。

即ち、ヤマキマダラヒカゲは鳥取県東部にてもサトキマダラヒカゲと混棲して鳥取市久松山塊と中国山脈山岳地帯に広く分布すると考えられる。

終りに当り、標本の検討、教示を頂いた高橋真弓氏に御礼を申し上げる。

(臥牛、2号に速報済)

《おとしぶみ》

ニッコウナミシャク総社市での記録

ニッコウナミシャク *Ameobotricha grataria* LEECH は、すずむし、第109号により稻荷山で記録されているが筆者は次の2ヶ所で採集しているので報告しておく。

総社市豪渓、1ex., 9. XI. '70,

総社市下三輪、1ex., 10. XI. '72; 1ex., 22. XI. '72,

下三輪での採集は40Wの電球に集まつたものである。

(渡辺 和夫)

1973年に採集した蝶から

渡 辺 肇

(新見市広瀬正田)

私が本年(1973年)採集した蝶類の中から岡山県内では個体数が少いか、または産地の局限されているもの8種をとりあげ報告します。なお、種々御教示をいただいた難波通孝、中村具見両氏には深く感謝いたします。

1. ベニモンカラスシジミ *Strymonidia iyonis kibiensis* SHIRÔZU et NANBA
新見市正田広瀬(標高250m位)^{はせ}と新見市下長屋長谷谷(200m)の2ヶ所で採集、くわしいことは難波通孝氏より報告されます。なお、広瀬の採集場所は小野田セメント工場の採石場で発破の危険があり入山は禁止になっています。
2. カラスシジミ *Strymonidia w-album fentoni* BUTLER
新見市上市九の坂(380m)で7月7日(晴)朝8時頃カシワの木をたたいたところ♀1頭がとび出し採集。幼虫の食樹ニレ類については確認していない。
3. ハヤシミドリシジミ *Favonius ultramarinus hayashii* SHIRÔZU
阿哲郡大佐町大佐山々頂付近(900m)で8月19日(曇)♀1頭を採集。
4. ヒロオビミドリシジミ *Favonius latifasciatus* SHIRÔZU et HAYASHI
新見市草間切畑(370m)で6月30日(晴)♂1・♀1頭採集。
新見市上市九の坂(380m)にて7月7日(晴)♀1頭採集。
阿哲郡神郷町油野重藤(350m)にて7月7日(晴)♀1頭採集。
5. ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri* MURRAY
新見市正田広瀬(250m)で6月10日(晴)ウツギの花に吸蜜中の1頭を採集。
6. ゴマシジミ *Maculinea teleius daisensis* MATSUMURA
阿哲郡大佐町大井野下組(600m)にて8月8日(晴)1頭採集。
阿哲郡大佐町大佐山(600m)にて8月19日(曇)ワレモコウの花に多数吸蜜していたものを4頭採集。
7. クロツバメシジミ *Tongeia fischeri* EVERSMANN
新見市西方布原(250m)にて7月7日(晴)岩上のツメレンゲにとまっていたもの2頭を採る。
8. オオヒカゲ *Ninguta schrenckii* MÉNÉTRIÈS
阿哲郡大佐町大井野市倉峠(700m)にて8月8日(晴)1頭採集。

ヒメシジミの分布記録取消について

すずむし、第108号“岡山県の蝶”のp.31、ヒメシジミの分布記録の中の正田広瀬(May 26, '71, WT), 河本ダム(May 26, '71, WT):の項は誤認のため取消します。

(渡辺 肇)

《おとしぶみ》

ウスイロコノマチョウを採集

ウスイロコノマチョウ *Melanitis leda* LINNAEUS の県内での記録は 1960：倉敷市、1963：津山市で採集された 2 例の報告があるが新見市にて採集したので記録しておく。新見市正田広瀬、1 ♀, 6. IX. 1972, 午前 9 時 30 分薄曇。なお、後翅が少しいたんでいた。
 (渡辺 育)

クロコノマチョウを浅口郡金光町で採集

1972年10月5日の午前8時前に、金光町占見新田の遙照山山麓で、クロコノマチョウを採集しました。帽子で採ったのにもかかわらず、非常に完全です。2頭とも樹林内で採集され、友田採集のものは、曇の日で11時ごろ採集されました。

1 ♂, 5. X. 1972, 西島採集

1 ♂, 13. X. 1972, 友田採集

(西島真也)

クロコノマチョウの記録 2 例

1. 新見市豊永湯川, 15. X. 1972

豊永中生徒採。同中学の白岩先生より報告、標本は筆者が確認した。

2. 岡山市西大寺金田, XI. 1949

西大寺高校標本。この記録は既に“すずむし”4巻3号に報告済であるが“岡山県の蝶”よりもれたので再度記録しておく。

(赤枝一弘)

ヒメシジミの新産地

芸備線矢神駅南東 3.5 km にある鯉ヶ窪においてヒメシジミを採集した。当地は池の一部が湿原となっており食草と思われるアザミの一種が群落を形成している。雄の一部は破損していたが雌は新鮮であった。交尾飛翔型は一例しか観察していないが、♀ + ♂ → であった。

7 ♂, 14 ♀, 15. VII. 1973

岡山県阿哲郡哲西町矢田谷鯉ヶ窪 (540m)

(難波圭吾)

クロツバメシジミの新産地

邑久郡長船町福岡において、本種の多産地を発見したので、報告しておく。

2 exs., 22. VII. 1973

7 exs., 4. VIII. 1973

5 exs., 5. VIII. 1973

付近の石垣にはツメレンゲが自生しており、幼虫と蛹を採集したので、ここより発生しているものと思われるが、その範囲は広くない。

(藤原敏栄)

ホシチャバネセセリの新産地

本種は県内にて点々と記録されているが、小田郡より発見したので報告しておく。

1 ex., 2. IX. '73, 小田郡美星町水名, 三宅誠治採, サワヒヨドリに訪花。

1 ex., 2. IX. '73, 同 上, 中村具見採。

貴重なデータを提供していただいた中村具見氏にはお礼申し上げます。

(三宅誠治)

ホシチャバネセセリ 2化について

ホシチャバネセセリ *Aeromachus inachus* MÉNÉTRÈS について、すずむし、第108号（岡山県の蝶）によると、中国山地と吉備高原の一部より発見され、6月中旬及び7月中旬～8月下旬に記録が集中しているとありデータと共に記載してある。筆者は新見市草間においてかなりの個体を確認しているので参考として記録しておく。

新見市草間, 24. VI. '73, 3 exs., 筆者採。

新見市草間, 2. IX. '73, 30 exs. (筆者, 難波圭吾, 中村具見, 三宅誠治, 藤原敏栄の各氏採集)

交尾中の個体も確認し、オオバクサフジに訪花しているのも認められた。草間において1化は6月下旬、2化は8月下旬～9月上旬が発生期と推定される。

(難波通孝)

カラスシジミを阿哲郡三室で採集

すずむし、第108号（岡山県の蝶）によると、カラスシジミは英田郡後山の記録が県下で唯一のものであるが、筆者は三室の部落内で本種を採集したので報告する。

1 ♂, 3. VII. 1972, 阿哲郡神郷町三室 (550m)

(難波圭吾)

ウラギンシジミの卵採集

新見市尾崎付近においてウラギンシジミの卵を見つけたので報告する。

2. IX. '73, 1 卵, クズの花上より採集。

(三宅誠治)

ムラサキシジミの産卵

1973年3月10日に黒田でナラガシワの休眠芽の基部より寄生卵ではあったが本種の卵を採集したので報告しておく。

(藤原敏栄)

ウラナミシジミの一観察

ウラナミシジミ *Lampides boeticus* LINNAEUS の食草について[白水隆・原章(1962), 原色日本蝶類幼虫大図鑑, Vol. II]では、マメ科の花蕾、実と記載されているが、広島県賀茂郡豊栄町能良にて3. XI. '71, 茶の花にしきりと産卵しているのを確認した。3卵採集して帰り花のつぼみを与えると花弁の中に食い込み花粉や花弁を食して産卵より85日目

の 27. I. '72, 体長 11mm になるまで育ったが、越冬に失敗したためか死亡した。これが自然状態で成虫まで育っているか、いないか、今後の調査がまたれる。また、新見市草間でも茶の花にて数卵採集している。

(難波通孝)

川上郡備中町のミヤマカラスシジミとその飼育記録

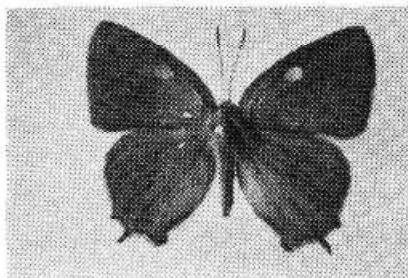
岡山県におけるミヤマカラスシジミ *Strymonidia mera* JANSON の記録は“すずむし”第108号によるといままでに県北の山地より数例の報告がある。採集地はミヤマカラスシジミの産地として極端に標高も低く、採集地点は標高わずか 280m である。

岡山県川上郡備中町平川, 23. I. '72, 12卵。

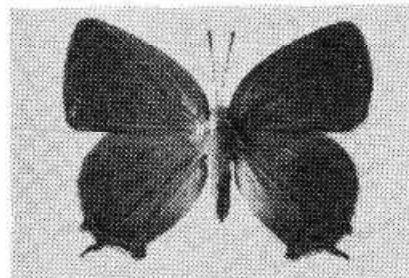
産卵樹はクロウメモドキで、産卵位置は短枝と小枝分岐点上部に 6 卵、小枝分岐点上部に 6 卵であった。次に採卵状況と飼育について記す。

採集地は小さな滝があり、その下にかなり大木のクロウメモドキが倒れたようになっており、これに産卵されていた。

飼育過程は、①15. II. '72, 孵化, 27. IV. '72, 蛹化, 16. V. '72, 羽化♂, ②9. III. '72, 孵化, 4. V. '72, 蛹化, 22. V. '72, 羽化♀, ③9. III. '72, 孵化, 1. V. '72, 蛹化, 16. V. '72, 羽化♂。他のゼフィルス、ベニモンカラスと比較し、幼虫期が非常に長期にわたっている。参考までに備中町産の♂、♀を写真で記録しておく。



(備中町産 ♂)



(備中町産 ♀)

(難波通孝)

岡山県のミヤマカラスシジミの新産地について

岡山県下からのミヤマカラスシジミの記録は、真庭郡及び英田郡の数例のみであるが、新見市北部から阿哲郡神郷町にかけて発達する石灰岩地帯から本種の卵及び幼虫が発見され、県西部にも分布していることが明らかになった。これらの地域は井倉付近の石灰岩地帶同様キビノクロウメモドキ及びクロウメモドキが多いが、井倉付近に多数生息しているベニモンカラスシジミはほとんど見られず、代ってミヤマカラスシジミが多産するのが特徴である。

なお、中村具見氏には資料を提供していただき御礼申し上げる。

阿哲郡神郷町本村 (400m), 28. V. 1972, 終齡幼虫 2 exs., 難波圭吾採.

クロウメモドキ

新見市吉川 (450m), 3. I. 1973, 50卵, 難波圭吾採.

" 25卵, 中村具見採.

キビノクロウメモドキ及びクロウメモドキ

他日新見市足立から神郷町本村にかけての調査でも各谷からミヤマカラスシジミの卵が見つかり、個体の密度は高いようである。

(難波圭吾)

広島県東部のミヤマカラスシジミの新産地

広島県におけるミヤマカラスシジミの記録は、広島虫の会会報、第6号「広島県の蝶」によると、山県郡芸北町、比婆郡高野町毛無山、及び庄原市であるが、新しく帝釈峠一帯において産地が確認されたのでまとめて報告することにした。発表において難波通孝氏には貴重な資料を提供していただき御礼申し上げる。

比婆郡東城町帝釈 (420m), 27. III. 1972, 卵多数 (キビノクロウメモドキ, クロウメモドキ), 難波圭吾採.

比婆郡東城町帝釈 (420m), 21. V. 1972, 終齢幼虫3 exs. (クロウメモドキ), 難波通孝採.

神石郡神石町犬瀬 (400m), 21. V. 1972, 終齢幼虫6 exs. (キビノクロウメモドキ), 難波通孝採.

比婆郡東城町宮原 (350m), 17. X. 1972, 18卵 (キビノクロウメモドキ), 難波圭吾採.

(難波圭吾)

スギカミキリを清音村で採る

いままでに都窪郡よりスギカミキリ *Semanotus japonicus* LACORDAIRE の採集例がないと思いますので報告しておきます。2. IV. '71, 都窪郡清音村上中島 2 exs. 採、また、狩屋武志君も 2 exs. 採集しています。

(渡辺和夫)

岡山県東部におけるムラサキツバメの発見

ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* BUTLER の県下における記録は、すずむし、108号（岡山県の蝶）によると、高梁川流域の総社市と倉敷市で採集されているが、個体数は記録的なものとあるが、次の通り備前市にて採集したので報告しておく。

岡山県備前市伊里中, 5. IX. '73, 1卵, シリブカガシ; 7. IX. '73, 3卵, 若齢幼虫1 ex. (30. IX. '73, 羽化♀), 終齢幼虫1 ex., シリブカガシ, 付近にはシリブカガシが10数本認められ、国道2号線と隣接している。

筆者は、すずむし、13(3) (通巻89号) (1963) においてムラサキシジミの食樹、シリブカガシについて県下の記録を記しているが、この中に備前市伊里もふくまれている。今後、鴨方町、美里町、矢掛町、御津町において発見される可能性は非常に大きい。

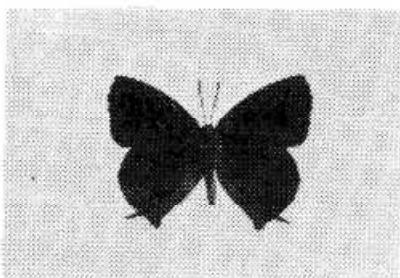
(難波通孝)

ムラサキツバメの淡色型を採集

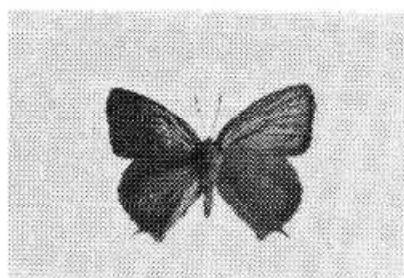
岡山県総社市豪渓にて、14.X.'72, 13時頃、ムラサキツバメ *Narathura bazalus turbata* BUTLER の異常型 1 穴を採集した。色は正常型よりかなり薄く翅脈がはっきりと見え外縁は茶色となり、その他は黄土色を帯びている。アラカシの葉上に静止しており羽化して間もない個体で、翅も完全に飛べる状態ではなかった。付近には 3~4m の所にシリブカガシがあり、もし、このアラカシの下で羽化したとすれば終齢幼虫は地上に降りてかなり歩き蛹化するものと推定される。

この異常型について九州大学の白水隆教授に親切なる助言をいただき、ムラサキツバメの異常型は未だ出たことがないとのことです。

参考までに写真をそえて報告しておきます。



正常型 ♂ 豪渓産



淡色型 ♂ 豪渓産
(難波通孝)

アゲハチョウ 3種の幼虫採集

筆者は川上郡成羽町でアゲハチョウ、クロアゲハ、カラスアゲハの幼虫を採集しているので報告する。

24.IX.'72, 川上郡成羽町フユザンショウよりカラスアゲハ 2 exs., アゲハチョウ 1 ex., クロアゲハ 1 ex., また、イヌザンショウよりカラスアゲハの幼虫 1 ex. を採集した。

(吉田徹也)

広島県東城町のメスアカミドリシジミについて

帝釽川沿いのサクラ数本からメスアカミドリシジミの卵を採集し、その後飼育により確認したので以下報告する。

20卵, 24.XII.1972, チョウジザクラ, 広島県比婆郡東城町帝釽 (450~500m)

(難波圭吾)

ギフチョウの産卵例

ギフチョウの産卵は原色日本蝶類幼虫大図鑑 (Vol. 1) によると、食草の葉裏に普通数卵から 10 数卵がきれいに並べて産みつけられるとあるが筆者らは 29.IV.'73, 真庭郡湯原にてミヤコアオイの葉表より採卵したので、一産卵例として報告しておきます。

(河原正幸・山崎 稔)

ナガサキアゲハの食樹ユズ

1972年8月28日～9月1日の間に、ナガサキアゲハの幼虫7頭をユズより採集し、ユズを与えて飼育した結果、1頭が蛹化に失敗したほかは、9月2日～10日の間に蛹化し、屋内で飼育したためか、9月12日に1♂、15日、17日に、各1♀が羽化してしまった。また、残りの3頭は、越冬状態に入ったようである。

屋外において、ユズでは、クロアゲハの幼虫もかなり多く食しているが、終齢幼虫の胸部の地色は明るい緑色（黄緑色）で、クロアゲハの幼虫では濃青緑色（くすんだ緑色）であり、また、帯の色は、ナガサキアゲハでは白色である。

また、自然状態でナガサキアゲハの♀が、ユズの大木の上を旋回する姿も、しばしば見かけられる。

（西島真也）

ミスジチョウ後期の飼育記録

昨年の暮れに津山で採集した4齢幼虫12頭のうち、筆者が飼育した10頭について、具体的なデータの得られたものをまとめてみました。

活動開始	4眠起	前蛹	蛹化	羽化	蛹期	性
III 24	IV 6	IV 21	IV 24	V 8	14	♀
III 26	VI 4	IV 18	IV 20	V 4	14	♂
IV 1	IV 8	IV 24	IV 26	V 10	14	♀
IV 2	IV 9	IV 25	IV 27	/		
IV 3	IV 9	IV 25	IV 28	V 11	15	♀
IV 3	IV 10	IV 27	IV 29	/		

- 活動開始から4眠に入るまで1週間ほどかかる。なおこの間は、ほとんど食物を食べない。
- 5齢期間は16日前後
- 蛹期は14～15日

以上のように活動開始後から羽化に至るまで約1ヶ月弱かかった。

なお、羽化に至る個体が少なかったのは、飼育ケース内の温度や湿度が適当でなかったためではないかと思われる。また、蛹化のさい、蛹に裂け目が生じ、乾燥して死んでしまったりしたためもある。

（三宅誠治）

蝶 7 種の産卵植物について

難 波 通 孝

(岡山市北長瀬 434)

生態観察として産卵について記録をしていたが、そのうち産卵のみ確認したもの7種について、その植物と共に記載しておく。なお産卵植物については岡山市久米の光畑之彦先生に同定をしていただいた。ここに深謝します。

1) オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida* MURRAY

岡山市西大寺益野, 20. IX. '72, 午後3時30分頃ススキに産卵。

2) オナガアゲハ *Papilio macilentus* JANSON

岡山県総社市豪渓, 9. IX. '72, イヌザンショウに産卵, 14. IX. '72, 孵化した。

3) キチョウ *Eurema hecabe mandarina* de l'ORZA

岡山市一宮福谷, 23. VIII. '72, 3頭の母蝶がメドハギにしきりと産卵しており、産卵位置はそのほとんどが新芽及び茎であった。また、その中の1頭がヤハズソウにも1卵を産卵した。次に岡山市東山にて, 12. IX. '72, ツクシハギにも産卵を確認している。

4) モンキチョウ *Colias erate poliographus* MOTSCHULSKY

岡山市原, 16. X. '72, スズメノエンドウに産卵。

5) スジグロシロチョウ *Pieris melete* MÉNÉTRIÈS 新見市草間, 24. VI. '73, 栽培のハクサイに産卵。広島県賀茂郡豊栄町, 15. VII. '73, 栽培のキャベツに産卵。

6) ルリシジミ *Celastrina argiolus ladonides* de l' ORZA

岡山市東山にて, 12. IX. '72, ツクシハギに産卵。ツクシハギのまわりを離れず産卵に適当な場所が見つからないのか、新芽にとまり産卵姿勢に移っても産卵せず、また他の場所をさがし、同じことを幾度かしているうちにやっと1卵を産卵した。

7) ツバメシジミ *Everes argiades hellotia* MÉNÉTRIÈS

岡山市西大寺芥子山にて, 3. VII. '73, 正午ナツフジに産卵。2頭の母蝶はナツフジの茎上を歩きながら産卵場所をさがし、新芽に産卵しては飛び立ち、2頭共しきりと産卵を続け、途中翅をひらき日光浴もしていた。

蝶 3 種の飼育例

難 波 通 孝

(岡山市北長瀬 434)

ここに報告する3種は極めて普通に産する部類であるが、産卵から羽化までの確認ができたので飼育例として報告しておきます。

1) モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* BOISDUVAL

岡山市北長瀬にて, 30. V. '71, シャクシナに産卵す。2. VI. '71, 孵化, 13. VI. '71, 蛹化, 20. VI. '71, 羽化する。1♂であった。卵期3日, 幼虫期11日, 蛹期7日。

2) モンキチョウ *Colias erate poliographus* MOTSCHULSKY

岡山県総社市中原にて、15.V.'71、ミヤコグサに産卵す。17.V.'71、卵の色がルビーレ色に変色する。20.V.'71、孵化、13.VI.'71、蛹化、21.VI.'71、羽化する。1♂であった。卵期5日、幼虫期23日、蛹期8日。

3) ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* SEITZ

岡山県高梁市広瀬にて、9.V.'71、ギシギシに産卵す。15.V.'71、孵化、3.VI.'71、蛹化、16.VI.'71、羽化する。1♀であった。卵期6日、幼虫期19日、蛹期13日。

産卵状況は、母蝶が食草にとまると10~20秒程度食草上を歩き回り、根本近くへ入り込み葉の軸に産卵し飛び立った。産卵当初は青味がかっているが、数時間後に乳白色へと変化した。

<おとしぶみ>

カシワの枯枝よりヒメコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* BATES が羽化

1973年5月、上斎原村辰巳崎のカシワの枯枝を持ち帰っておいたところ、ヒメコブヤハズカミキリが羽化したので報告しておく。ところで7月に再度同所を訪れて驚いた。一面に鉄条がはりめぐらされ、社有地に付き立入禁止という立札である。いざれ別荘地にでもするのであろうが、ウスイロヒョウモンモドキ、ヒメシジミが群れ飛び、ハヤシミドリシジミが乱舞するこの一帯の自然が消滅するのも近いのではなかろうか。

(赤枝一弘)

ミドリケンモンの採集例

総社市においてミドリケンモン *Daseochaeta viridis* LEECH を採集しているので報告する。

29. XI. '70, 1ex., 総社市下三輪。

付近の螢光燈に飛来したものを探集した。

(渡辺和夫)

ミヤマサナエを新庄村で採集

筆者は岡山県未記録の *Anisogomphus maackii* SELYS ミヤマサナエを 5.VII.1973, 新庄村野土路で採集した。

ところで県下のトンボは何種だろうか、美作の昆虫、1、美作虫の会(1968)を見ると美作地方68種、岡山県76種となっているが、美作の自然、2(1970)において竹内、道信両氏によってサラサヤンマとルリボシヤンマが追加されている。それを加えると美作70種県内78種となるが、これには本誌上に筆者と林氏が記録しているアオヤンマとオオキトンボがもれているのでそれを加えると県下のトンボは80種となり、今回の1種を加え計81種となる。なおこの目録には従来記録されたことのあるオオルリボシヤンマは不確実な記録のため含まれていない。

(赤枝一弘)

Maddester 雜言録 (11)

昆 虫 採 集 余 話

水 野 弘 造

(宇治市宇治野神1)

私の標本箱に並んだ標本は私自身が採ったものよりも他人の採集によるものの方が多いことにより誰にもわかる通り私の採集技術は全く拙劣で、いわゆる「横好きの」という枕ことばの付くマニヤにすぎず、採集に出かけてもうんざりする程虫が採れたとか珍品が採れたとかいう記憶は殆どなく、情ないことにどこへ行った時の思い出も何も採れなかつたということの方が優勢である。そのように収穫のなかつた採集行でも時として鮮烈な思い出を残す場合もある。

(第1話) 1964年5月17日のこと、当時まだ独身だった私はカミキリムシを250種集めるまでは結婚しないという全く一方的な宣言をしていた関係で、シーズンともなると日曜毎に皮算用よろしく今日は○○と○○と○○を探るんだとばかりに京都の北山や比良山などへあきもせず出かけていた。その日はたぶんヘリウスハナとフタスジカタビロハナとウスグロヒゲナガコバネあたりを目標に(ついでながらこの3種のうち後2種は8年を経過した現在に至るも未だ自分の手で採ったことがない)大悲山へ向って朝7時のバスの人となつた。バスの中で同好の士とおぼしき中年の紳士2名を見つし、目的地と目標を尋ねるとわざわざ大阪から上京の紳士の1人はウスバシロチョウを今1人はヘリウスハナカミキリを求めて佐々里峠へ行くとの答であった。

ヘリウスハナをどういう所で採ればよいのか知識のなかつた私はこれ幸いとばかりに行き先を佐々里峠に変更しこの紳士について行ってみることにした。ところで到着した佐々里峠とは実につまらぬ峠で虫の姿も見当らぬ乾燥した斜面が続いており両紳士もさすがにあきれて大悲山に引き返して行った。峠を越えればあの有名な原生林のある芦生の入口であることに期待を残した私は両紳士に別れを告げて単身峠を越してみることにした。虫の採れぬ日はむやみに天気が良いものでカラカラに干からびた道を歩きに歩いてやっとこさ安排というバス停にたどりついたのが午後も5時近く、途中で採れたのはわずかにジャコウホソハナ1ex., ウスバシロチョウ3exs.だけというみじめさに心身ともに疲れて、ウドン屋でバスの待ち時間をつぶしていた。とその時奥の方から一杯機嫌の変なオッサンの声がかかって「アンさん何採ってハリマンネン.」「虫ですよ.」「何の虫デッカ.」「昆虫です、カミキリムシ.」「フンそんなもん金になりマンノカ、ワテはヘビ採ってマンネン.」というような具合で、そのヘビ採りのオヤジの手柄話を聞かされる羽目になってしまった。すなわちそのオヤジはヘビを製薬会社に売って生計を立てており、滋賀県の某所から来たのだが、滋賀県にはそのようにヘビ採りを専業とする人達の部落が3ヶ所あり互にナワ張りがあるのでこのオヤジのように他府県まで足をのばすこともしばしばある。行き先(特に同業者の歩いた後とかイノシシの多い地域)や天候によってはいかにヘビ採りの達人といえ

ども一匹も採れぬことも時にあるが、今日はどういうわけかヘビが多く1日で200匹程も採れたと景気良く盃を傾けていたわけである。京都へのバスは意外に混んでいて京都駅に着くまでの2時間私の片足は座席の前に置かれたそのオヤジの収穫物の袋（中身はマムシをはじめとする200匹の生きたヘビの筈）の上に乗っかかってそのまま身動きできなかつたのである。

それから数ヶ月後の夕刊の片隅に京都駅待合室の忘れ物の中に生きたヘビが一杯詰まつた袋があつて開けてみた駅員があわててあわてたという記事を見つけたことがある。

ついでながらそのオヤジの話ではヘビは目方で売るので小さいマムシより大きい青大将の方が金になる由。マムシ酒など称する代物も大抵は普通のヘビを使ったものに相違ない。

（第2話）木曾駒ヶ岳と云えばカミキリ屋仲間では知らぬ者の無い珍種タニグチコブヤハズの産地としてあまりにも有名であるが、又ここ程虫の採れない山も少いのではなかろうか。1969年6月15～6日私はタニグチコブに對し3度目の挑戦を試みたが又もや夢は無残にも打ちくだかれて殺虫管にはフタコブルリハナ、ハネビロハナ、キモンハナ、ピックニセハムシハナなどのハナカミキリ若干数が入っただけで、駒ノ湯鉱泉附近の山道をとぼとぼと歩いていた。人影の滅多にない林のむこうから突然5～6人の男達が現われたのだがどうも何をしに来た人達なのだが見当がつかない。山林業務者にしては服装が整いすぎて測量などしているようでもなく、段々近づいて来る面々を見ると顔立ちは多少インテリじみているのでどこかの大学の研究室から何かの調査に来たものと思い捲挨がてら何を探しているのか尋ねたものである。と、返事が返ると思う一瞬男の一人が「タカダー！」と絶叫したのである。その瞬間私は何が起ったのかさっぱり分らなかったのだが男たちは号令をかけられた兵士のように一勢に双眼鏡をのぞきこんで空を見上げたのである。つられて私も空を仰ぐと御岳山の白嶺を向こうに青空高く一羽のタカが悠々と滑空していた。2分間程皆感激にひたって無言無心に双眼鏡で鳥の追跡をしていたが「ハヤブサカ」「いや待て……」などとつぶやきの聞こえるうちに鳥は山かけに消えて行った。われに帰った男達は幾分照れくさそうに微笑みながら「イヤ研究なんぞじゃありません。ただ鳥を見て歩いているだけですよ。」と言って行き違ったのであった。私はその帰りの汽車の中でタニグチコブヤハズが採れなかつたことをそれ程残念とも思わず、木曾駒ヶ岳の青空と男達の純粹な感激の顔を思い返しながらまどろむことができたのであった。

編集後記

今回は大阪市立自然史博物館の日浦勇氏からベニモノカラスシジミによせて特別寄稿をいただきました。感謝の意を表わしたいと思います。又、非常に多数の会員諸氏、特に若手からの投稿をいただき、その内容も生態観察、新分布記録、飼育例…とバラエティーに富んだものとなりました。このように数多くの投稿があったのも“岡山県のカミキリムシ”続いて“岡山県の蝶”的編さんをきっかけに、いかにその空白の部分が多いかということが明白化し、早くそれをうめようという意気込みの現れだと確信します。又、紙面の都合で次号に繰越させていただいたものも多くあり、例えば“臥牛山のカミキリムシについて”“シロスジドウボソカミキリとその観察”など次号掲載を予定していますので、ご了承ください。

(S・N記)

倉敷昆虫同好会顧問

深谷昌次先生
石原保先生
小泉憲治先生
安江安宣先生
佐藤清明先生
杉山章平先生
白木隆先生
重井博先生

医療法人

重井病院

倉敷市幸町 TEL(22)3655

すずむし No. 110, December 15, 1973

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町（倉敷昆虫館内）

振替口座 岡山6927

本部（倉敷市中央2丁目20の1 岡山大学大原農業生物研究所内）

印刷所 山陽印刷株式会社

岡山市中山下2丁目5番50の101号